

中津川市リニアを活用したまちづくり推進市民会議での経緯

令和元年12月23日（月）



1. 「中津川市リニアを活用したまちづくり推進市民会議」の開催

【会議の開催日程、内容】

第1回 平成30年12月27日(木)

「中津川市リニアを活用したまちづくり構想(案)」の概略説明

第2回 平成31年1月25日(金)

「リニア駅周辺のまちづくり」、「市域全体をつなぐ観光振興」に関する意見聴取

第3回 平成31年3月26日(火)

「中心市街地の活性化」、「リニア駅周辺のまちづくり」に関する意見聴取

第4回 令和元年5月29日(水)

「中津川市リニアを活用したまちづくり構想(案)」及び「提言書(案)」に関する意見聴取

中津川市リニアを活用したまちづくり構想 (令和元年7月策定)

「中津川市総合計画中期事業実施計画」
(H30年10月策定)

計画期間：R1(2019)～R4(2022)年

リニア開業を見据え、
今、特に重点をおいて取り組むべき課題を抽出

- リニア駅周辺のまちづくり
- 中心市街地の活性化
- 市域全体をつなぐ観光振興

具体的戦略、事業を本格的に進めるため
「まちづくり構想」をまとめる

2. 「中津川市リニアを活用したまちづくり構想」における位置づけ

点から線、圏域への広がり
地域文化・観光資源の拠点づくり

リニア駅

「岐阜県の東玄関口」

- ・県全体の窓口として、木曾、三河、名古屋圏、首都圏や関西圏への繋がり
- ・交通の拠点(バス・タクシー、電車、自家用車・レンタカー)

○観光中核センター整備

- ・拠点施設「(仮称)清流の国ぎふ観光ターミナル」の整備
観光、歴史文化、食、特産品など、来訪者の求める県内情報発信と案内、休息所機能
大型スクリーン設置(リニア、地歌舞伎、馬籠宿等の観光資源の情報発信)
旅の最後に県の特産品など土産物を購入
県民交流スペース(行政窓口、会議室等)
- ・美乃坂本駅(在来線)の橋上化
- ・駅周辺まちづくり(民間開発誘導)

観光地域

「地域資源の魅力向上と広域連携・周遊」

- ・芝居小屋の文化・観光活用、国道257号(中津川・下呂間)地歌舞伎街道のブラッシュアップ
- ・「清流の国ぎふ」を味わう体験型観光の体制整備(ボランティア育成、ネットワーク構築等)
- ・ゆかりの芸術家、文学者めぐり
- ・馬籠宿から市内各地への観光客誘導、公共交通の確保

○観光振興施設等整備

- ・拠点施設「(仮称)芝居小屋」の整備
地歌舞伎体験や土産品販売、大型駐車場整備、地元産食材が味わえる食堂
- ・裏木曾県立自然公園、式年遷宮御用材産出の地、大小さまざまな滝、キャンプ場等による、「清流の国ぎふ」を味わう自然体験
- ・市内芸術・文学施設等の周遊
- ・神坂PAを拠点とした観光地の広域連携強化、苗木遠山史料館内にビジターセンター整備
- ・路線バス・タクシー等を活用した公共交通網維持

中心市街地

「歴史文化資源を活用したまちの中核機能」

- ・市街地再生(リノベーションによる町並み再整備)
- ・観光案内充実や特産品販売所の整備
- ・中山道三宿(中津川、落合、馬籠)散策のセンター機能
- ・空き店舗を活用した飲食店や宿泊施設等の再生

○町並みの計画的整備

- ・拠点施設「(仮称)市民交流プラザ」の整備
新町ビル跡地に、子育て支援や地域活動、域学連携大学生や高校生の活動、図書コーナー、観光案内などの機能をもった複合施設整備
- ・町家等を活用したゲストハウス、飲食店、展示スペース、統一案内サイン
- ・「(仮称)まちなか美術館」の整備
- ・駅前広場(観光案内所など)の整備
- ・中山道散策のためのシステムづくり(石畳、茶屋、休憩所やトイレの設置、交通機能や駐車場の整備、情報発信)
- ・駅前エリアの再生(飲食店街、ホテル、ビジネス)

3. 市民意見等の把握

■中心市街地活性化拠点施設に関する市民会議での主な意見

【会議における主な意見】

- ・ 幅広い年代が利用する複合施設に。
- ・ 市民交流の場の整備。
- ・ 子どもたちの居場所となり、誰でも立ち寄れる子育て世代にやさしい場所に。
- ・ 高齢者が集い、活動できる場所。
- ・ 老若男女、様々な年代の人が使える、ワークショップや会議などいろいろなことができる拠点をイメージ。
- ・ 交流拠点としての図書館。
- ・ 会話も飲食もできる新しい形の図書館。
- ・ 子どもたちが伝統文化を体験できる施設。

■ 「中津川市リニアを活用したまちづくりにかかる提言書」(令和元年5月)における「中心市街地の活性化」についての提言

- ・ 機能の複合化を図ることで多様なサービスを提供し、子どもから高齢者、障がい者など多くの市民が日常的に利用できるような、にぎわい創出の核となり、交流や活動、学びの拠点施設の整備を図ること。
- ・ 拠点施設には、観光客などの市外からの来訪者が市内を回遊する仕組みづくりに向けて、市内各地の観光・イベント、歴史・文化などに触れることができる機能を備え、情報発信を図ること。
- ・ 拠点施設の整備にあたっては、老朽化し手狭となった現在の中央図書館の拡張移転を踏まえ検討するとともに、集客力と特色のある学びの拠点にふさわしい規模や図書機能についてよく検討すること。
- ・ 拠点施設を含め中心市街地の整備にあたっては、市民と一体となって、飲食、宿泊施設の充実など快適性や回遊性を高めるとともに、中津川らしさが感じられるまちづくりに向けて検討を進めること。